

本願寺新報
hongwanji journal

11月23日(金曜日)

毎月1日・10日・20日発行

発行所 本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派(西本願寺)
〒600-8501 本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) / FAX075(341)7753

秋の法要
ご親教

号外

11月22、23日に本山恒例の「秋の法要」(全国門徒総追悼法要)が阿弥
陀堂で営まれた。23日10時30分からの法要に引き続き行われたご親教で、
ご門主は、若者をはじめとした方々を対象に「念仏者の生き方」のお心を
体したご教示「私たちのちかい」を述べられた。

「私たちのちかい」示される 「念仏者の生き方」の肝要四カ条に

私は伝灯奉告法要の初日に「念仏者の生き方」と題して、大智大悲からなる阿弥陀如来の
お心をいただいた私たちがこの現実社会でどのように生きていくのかという点について、
詳しく述べさせていただきました。このたび「念仏者の生き方」を皆様により親しみ、理解
していただきたいという思いから、その肝要を「私たちのちかい」として次の四カ条にまと
めました。

私たちのちかい

一、自分の殻からに閉じこもることなく

穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
ほほえ
微笑み語りかける仏さまのように

一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず

しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように

一、自分だけを大事にすることなく

人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲じひに満ちみちた仏さまのように

一、生かされていることに気づき

日々ひびに精一杯せいはいとめまします
人びとの救いに尽くす仏さまのように

この「私たちのちかい」は、特に若い人の宗教離れが盛んに言われております今日、中学
生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗のみ教えにあまり親しみのな
かった方々にも、さまざまな機会機会で唱和していただきたいと思っております。そして、先人
の方々が大切に受け継いでこられた浄土真宗のみ教えを、これからも広く伝えていくことが
後に続く私たちの使命であることを心に刻み、お念仏申す道を歩んでまいりましょう。

二〇一八(平成三十)年十一月二十三日

浄土真宗本願寺派門主 大谷 光 淳